

事務事業名	消火栓整備事業			担当	市民生活部 市民生活課 危機管理係		
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり		増補版施策名			
施策名	7	防災対策の充実強化		<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略			事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和39年度～） <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
法令根拠							
予算科目	1.一般会計	9.消防費	1消防費		3消防施設費		
事業概要	消防水利を確保するため、水道事業の配水管延長事業に合わせ、消火栓を設置し、設置負担金を水道事業に支出している。 既設消火栓については、維持管理負担金を水道事業に支出している。 平成29年度末既設消火栓数 計1,507基						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 29年度実績 水道事業の配水管拡張計画、地域の設置要望等により消火栓設置箇所 の決定。 設置工事は水道事業者が実施。 既存の消火栓については、同維持管理負担金を支出した。 30年度計画 H29に同じ	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
	ア	新設した消火栓設置数	基	2	4	4	4	2
	イ	廃止した消火栓数	基		1			
	ウ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 市内全域	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
	ア	既設の消火栓数（維持管理）	基	1,491	1,493	1,497	1,501	1,505
	イ	（維持管理は既設数と一年ずれる）						
	ウ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 消防水利を確保することにより、迅速な消火活動を可能にする。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
	ア	消火栓の利用数	回	8	6	6	8	7
	イ	隣家等への延焼件数	件	0	0	0	1	0
	ウ							
④結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 市民が安心できるまちづくり。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
	ア	安全安心なまちと考える市民の割合	%	70.0	72.4	72.4	70.7	70.7
	イ	（市民意向調査）						
	ウ							

(2) 総事業費の推移		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	9,291	10,767	10,973	10,137	10,104
	事業費計(A)	千円	9,291	10,767	10,973	10,137	10,104
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	10	10	10	10
		人件費計(B)	千円	42	42	42	42
トータルコスト(A)+(B)		千円	9,333	10,809	11,015	10,179	10,146

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	水道事業の開始により、消防水利の整備による真岡市の消防力の向上を図るため。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	区画整理事業や宅地造成事業の進捗などにより、都市化に対応しうる消防水利の確保が必要である。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	